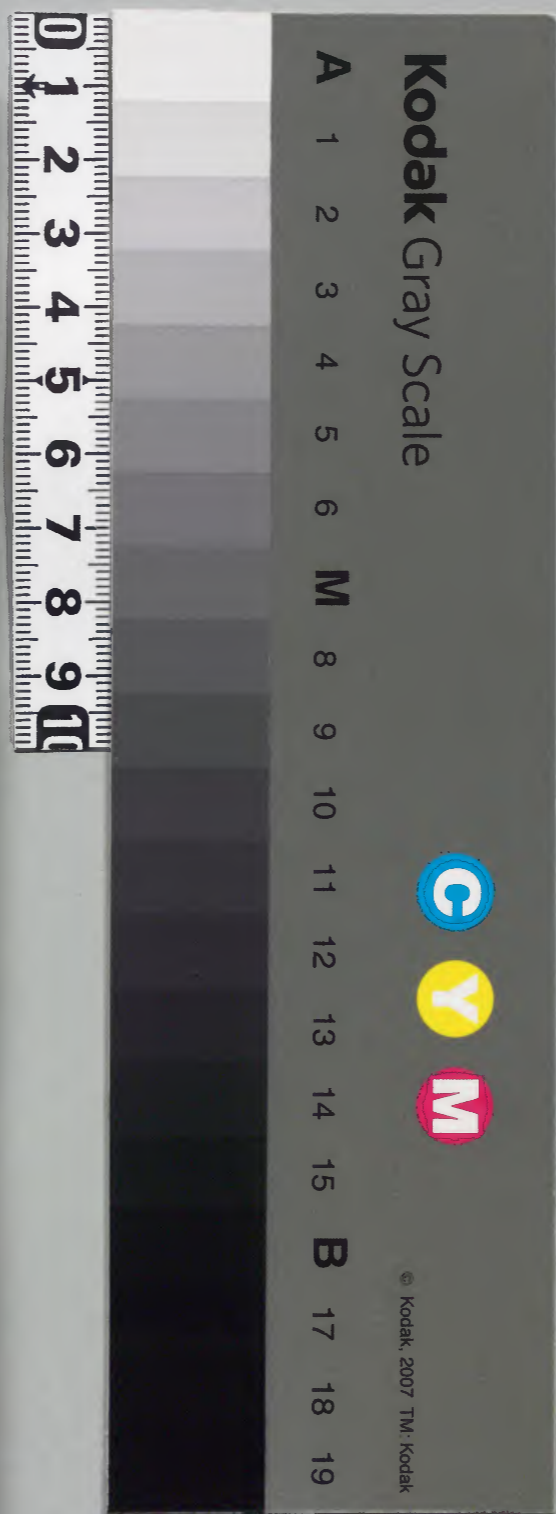


和書門類
函架冊
二〇一〇

二〇一〇	函架冊	二八三九三	和書門類
------	-----	-------	------

二〇一〇	函架冊	二八三九三	和書
------	-----	-------	----

内閣文庫	番號	和 28393
	冊數	20 (8)
	函號	200101



糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり
綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり

萬葉集卷第八

春雜歌

キノミコノヨコロノミウタ

志貴皇子權御歌一首

鏡王女歌一首

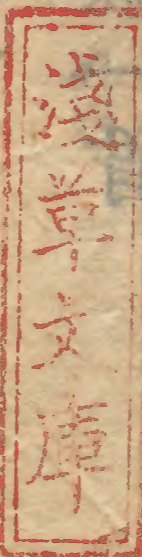
駿河采女歌一首

尾張連歌二首

名闌

中納言阿倍廣庭卿歌一首

山部宿禰赤人歌四首



草香山歌一首

櫻花歌一首并短歌

山部宿禰赤人歌一首

大伴坂上郎女柳歌二首

大伴宿禰三林梅歌一首

原見王歌一首

大伴宿禰材上梅歌二首

大伴宿禰駿河麻呂歌一首

中臣朝臣武良自歌一首

河邊朝臣東人歌一首

大伴宿禰家持鸞歌一首

大藏少輔丹比屋主真人歌一首

丹比真人乙麻呂哥一首屋主真人第一子也

高田女王歌一首高安之女也

大伴坂上郎女歌一首

大伴宿禰家持春鴉歌一首

大伴坂上郎女歌一首

春相聞

大伴宿禰家持贈坂上家之大嬢歌一首

大伴田村家毛大嬢與妹坂上大嬢歌一首

大伴宿禰坂上郎女歌一首

笠女郎贈大伴家持歌一首

紀女郎歌一首 名曰小鹿

天平五年癸酉

春閏三月笠朝臣金村贈入唐使歌一首 并

短歌

藤原朝臣廣嗣櫻花贈娘子歌一首

娘子和歌一首

厚見王贈父米女郎歌一首

父米女郎報贈歌一首

紀女郎贈大伴宿禰家持歌二首

大伴家持贈和歌二首

大伴家持贈坂上大嬢歌一首

夏雜歌

藤原夫人歌一首

志貴皇子御歌一首

弓削皇子御歌一首

小治田廣瀨王霍公鳥歌一首

沙彌霍公鳥歌一首

刀理宣令歌一首

山部宿禰赤人歌一首

式部大輔石上堅魚朝臣歌一首

太宰帥大伴卿和歌一首

大伴坂上郎女思筑紫大城山歌一首

大伴坂上郎女霍公鳥歌一首

小治田朝臣廣耳歌一首

大伴家持霍公鳥歌一首

同家持橘歌一首

同家持晚蟬歌一首

大伴書持歌二首

大伴清繩歌一首

庵君諸立歌一首

大伴坂上郎女歌一首

大伴家持唐棣花歌一首

同家持恨霍公鳥晚喧歌二首

同家持權霍公鳥歌一首

同家持惜橘花歌一首

同家持霍公鳥歌一首

同家持雨日聞霍公鳥喧歌一首

橘歌一首 遊行女婦

大伴村上橘歌一首

大伴家持霍公鳥歌二首

同家持石竹花歌一首

惜不登筑波山歌一首

夏相聞

大伴坂上郎女歌一首

大伴四繩宴吟歌一首

大伴坂上郎女歌一首

小治田朝臣廣耳歌一首

大伴坂上郎女歌一首

紀朝臣豐河歌一首

高安歌一首

同家持惜橘花歌一首

同家持霍公鳥歌一首

同家持兩日聞霍公鳥喧歌一首

橘歌一首 遊行女婦一首

大伴村上橘歌一首

大伴家持霍公鳥歌二首

同家持石竹花歌一首

惜不登筑波山歌一首

夏相聞

大伴坂上郎女歌一首

大伴四繩宴吟歌一首

大伴坂上郎女歌一首

小治田朝臣廣耳歌一首

大伴坂上郎女歌一首

紀朝臣豐河歌一首

高安歌一首

大神女郎贈大伴家持歌一首

大伴田村大嬢與妹坂上大嬢歌一首

大伴家持攀橘花贈坂上大嬢歌一首并短

歌

同家持贈紀女郎歌一首

秋雜歌

岡本天皇御製哥一首

大津皇子御歌一首

穗積皇子御歌一首

但馬皇子御歌一首 一云子部王作

山部王惜秋葉歌一首

長屋王歌一首

山上憶良七夕歌十二首

太宰諸卿大夫并官人等宴筑前國蘆城驛

家歌二首

笙朝臣金持伊香山作歌二首

石川朝臣老夫歌一首

藤原字合卿歌一首

縁達帥歌一首

山上臣憶良詠秋野花歌二首

天皇御製歌二首

太宰帥大伴卿歌二首

三原王歌一首

湯原王七夕歌二首

市原王七夕歌一首

藤原八束歌一首

大伴坂上郎女晚茅子歌一首

典鑄正紀朝臣鹿人至衛門大尉大伴宿禰

イナキカトニシツサ上ニ稻公跡見庄作歌一首

湯原王鳴鹿歌一首

市原王歌一首

湯原王戀蟀歌一首

衛門大尉大伴宿禰稻公歌一首

大伴家持和歌一首

安貴王歌一首

忌部首黑麻呂歌一首

故郷豐浦寺之屋私房宴歌三首

大伴坂上郎女跡見田庄作歌二首

カキイノミソカムスメノ巫部麻蘇娘女鴈歌一首

大伴家持和哥一首

上
オキノナカエカムスメノ

日置長枝娘子歌一首

大伴家持和歌一首

同家持秋歌四首

藤原朝臣八束歌二首

大伴家持白露歌一首

大伴利上歌一首

右大臣橘家宴歌七首

橘宿禰奈良丸結集宴歌十一首作者十人

大伴坂上郎女竹田在作歌二首

佛前唱歌一首

大伴宿禰像見歌一首

大伴宿禰家持到娘子門作歌一首

同家持秋歌三首

内舍人石川朝臣廣成歌二首

大伴宿禰家持鹿鳴歌二首

大原真人今城傷惜寧樂故郷歌一首

大伴宿禰家持歌一首

秋相聞

額田王思近江天皇作歌一首

鏡王女作歌一首

弓削皇王御歌一首

丹比真人歌一首 名闕

丹生女王贈太宰帥大伴卿歌一首

笠縫女王歌一首 大入部親王之女
母曰田形皇女

石川賀係女郎歌一首

賀茂女王歌一首

遠江守櫻井王奉 天皇歌一首

天皇賜報和御歌一首

笠女郎贈大伴宿禰家持歌一首

山口女王賜大伴宿禰家持歌一首

湯原王贈娘子歌一首

大伴家持至姑坂上郎女竹田庄作歌一首

大伴坂上郎女和歌一首

巫部麻蘇娘子歌一首

大伴田村大嬢與妹坂上大嬢歌二首

坂上大娘秋稻蘘贈大伴宿禰家持歌一首

大伴宿禰家持報贈歌一首

又報脫著身衣贈家持歌一首

大伴宿禰家持攀非時藤花并茅子黃葉二

物贈坂上大嬢歌二首

同家持贈坂上大嬢歌一首 并短歌

同家持贈安倍女郎秋歌一首

同家持從久邇京贈留寧樂宅坂上大嬢歌

一首

或者贈屋歌二首

尼作頭句并大伴宿禰家持所訛尼續未句

和一首

冬雜詞

舍人娘子雪歌一首

太上天皇御製歌一首

天皇御製歌一首

太宰帥大伴卿冬日見雪憶京歌一首

同鄉梅歌一首

角朝臣廣辯雪梅歌一首

安倍朝臣奧道雪歌一首

若櫻部朝臣君足雪歌一首

三野連石守梅歌一首

巨勢朝臣宿柰麻呂雪歌一首

小治田朝臣東麻呂雪歌一首

忌部首黑麻呂雪歌一首

紀少鹿女郎梅歌一首

大伴宿禰家持雪梅歌一首

御在西池邊肆宴歌一首

大伴坂上郎女歌一首

池田廣津娘子梅歌一首

絲犬養娘子依梅發思哥一首

大伴坂上郎女雪歌一首

冬相聞

三國真人人足歌一首

大伴坂上郎女歌一首

和歌一首

藤皇后奉 天皇御歌一首

池田廣津娘子歌一首

大伴宿禰駿河麻呂歌一首

紀少鹿女郎歌一首

大伴田村大嬢與妹坂上大娘歌一首

大伴宿禰家持歌一首

春雪

沫雪香薄太禮爾零登見左右二流倍散波何

物花其毛

尾張連歌二首 名闕

春山之開乃乎為黑爾春菜採妹之白紵見九

四與四門

打靡春來良之山際遠木末乃開往見者

中納言阿倍廣庭卿歌一首

去年春伊許自而植之吾屋外之若樹梅者花

咲爾家里

山部宿禰赤人歌四首

春野爾須美禮採爾等來師吾曾野乎奈都可

之美一夜宿二來

足比奇乃山櫻花日並而如是開有者甚戀日

夜裳

吾勢子爾令見常念之梅花其十方不所見雪

乃零有者

春梅

花

春菜

春梅

春

春菜

春菜

アスヨリハワカナツムトニキノフモケケ
從明日者春菜將採跡探之野爾昨日毛今日
毛雪波布利管

草香山歌一首

オシテルナニハヲスキテウチナヒクサカノノヤミヲユラクレニワカ
忍照難波乎過而打靡草香乃山乎暮晚爾吾
越來者山毛世爾咲有馬醉木乃不惡君乎何
時往而早將見

右一首依作者微不顯名字

櫻花歌一首并短歌

花

嫉孀等之頭挿乃多米爾遊士之蕪之多米等
敷座流國乃波多豆爾開爾鷄類櫻花能丹穗
日波母安奈何

反調

去年之春相有之君爾戀爾手師櫻花者迎來
良之母

右二首若宮年魚麻呂誦之

山部宿禰赤人歌一首

百濟野
鶯春

クダラノハキノフルエニハルマツトスミシウケモスナキニケム
百濟野乃芽古枝爾待春跡居之鶯鳴爾鷄鳴

春
佐保道

柳

ワカセコカミラムサホキノアラヤキヲタヨリテタニ
大伴坂上郎女柳歌二首
吾背兒我見良牟佐保道乃青柳乎手折而谷

春
佐保河

ウチスルサホノカハラノアラヤキハイニハハルヘトナリニ
打上佐保能河原之青柳者今者春部登成爾

春
梅

シモユキモイマダスキナハオモハスニカスカノサトニウタノハナシツ
霜雪毛未過者不思爾春日里爾梅花見都

春
山振
甘南備河

カハツナリカミナヒカハニカケミエテイマヤサクラムヤニフキ
河津鳴甘南備河爾陰所見今哉開良武山振

春
梅

フメリトイヒレウメカエケフフリレアウユキニアヒテサキニ
大伴宿禰村上梅歌二首
含有常言之梅我枝今日零四沫雪二相而將

春
梅
春日里

ケハカモ
開可聞
カスミタツカスカノサトノウタノハナヤニレタカセニチリコスナユメ
霞立春日之里梅花山下風爾落許須莫湯目

春 春日里 梅

大伴宿禰駿河麻呂歌一首

カスミタツカスカノサトノウタノハナハ ナニ トハム ト ワカオモハナク
霞立春日里之梅花波奈爾將問常吾念奈久

爾

中臣朝臣武良自歌一首

トキハ イマハ ハルニ ナリヌト ミ ユキフルトホキヤマヘ ニ カスミタ ナ
時者今者春爾成跡三雪零遠山邊爾霞多奈

婢又

河邊朝臣東人歌一首

ハルノアメノ エキニキフルニ タカトノヤミノ サラハ イカニ アルラム
春雨乃敷布零爾高圓山能櫻者何如有良武

春 鸞

大伴宿禰家持鸞歌一首

ウチキラレ ユキハ フリツ、ニカス カニ ワカヘ ノ ソリニ ウチヒスナ
打霧之雪者零乍然為我二吾宅乃苑爾鸞鳴

裳

大藏少輔丹比屋主人歌一首

ナニハ 一ニ ヒトノ ユケレ ハ オシサ テ ワカナ ツムコ ラ ミル
難波邊爾人之行禮波後居而春菜採兒乎見

之悲也

丹比真人乙麻呂歌一首

カスミタツノ カミノ カタニ ユクレ カ ハ ウチヒスナツ ハルニ ナルラ
霞立野上乃方爾行之可波鸞鳴都春爾成良

春 鸞 易

春 難波 菜

思

高田女王歌一首

高安之女也

山振之咲有野邊乃都保須義禮此春之雨爾

盛柰里鷄利

大伴坂上郎女歌一首

風交雪者雖零實爾不成吾宅之梅乎花爾令

落莫

大伴宿禰家持養鷄歌一首

春野爾安佐留鷄乃妻戀爾已我當乎人爾令

知管

大伴坂上郎女歌一首

尋常聞者苦寸喚子鳥音奈都炊時庭成奴

右一首天平四年三月一日佐保宅作

春相聞

大伴宿禰家持贈坂上家之大嬢歌一首

吾屋外爾蒔之瞿麥何時毛花爾咲柰武名蘇

春 山振 堇菜

春 梅

春 雉

春 喚子鳥

春 瞿麥

へツ、三ム
經乍見武

大伴田村家毛大嬢與妹坂上大嬢歌一首

ツハナヌクアサチカハラノツホスミレ
茅花拔淺茅之原乃都保須美禮今盛有吾戀

昔波

大伴宿禰坂上郎女歌一首

コ、ロクキモノニソアリケルハルカスミタナヒクトキニコヒノ
情具伎物爾曾有鷄類春霞多奈引時爾戀乃

繁者

笠女郎贈大伴家持歌一首

カモ
水鳥之鴨乃羽色乃春山乃於保東無毛所念

可聞

紀女郎歌一首

ヤミナレハウヘモキマサスウツノハナサケルツキヨニイテ
闇夜有者字倍毛不來座梅花開月夜爾伊而

麻左自常屋

天平五年癸酉春閏三月笠朝臣金村贈入

唐使歌一首并短歌

タニタスキカケヌトキナクイキノラニワカオモフキミハウツセミノニコト
玉手次不懸時無氣緒爾吾念公者虛蟬之命

春
茅花
淺茅
荳菜

春
戀

春
戀

春
梅

雜

鶴
難波
三津
方

カレコミユフサレハ
タツノツマヨフナニハ
カタミツノサキヨリオホフ子ニ
マカチレシヌキシラナニノ
タカキアルミ
ラシニツタヒイワカレユケハ
トニ
二梶繁貫白浪乃高荒海乎島傳伊別往者留
有吾者幣引齊乍公乎者將往早還萬世

反歌

ナニノウヘユ
ミユルコ
レミノクモカクアナイキツカレ
アヒツカレハ
波上從所見兒島之雲隱穴氣衝之相別去者
タミキハルイノチニムカフユヒヨリハ
キミカニ
フ子ノカチカラモワカ
玉切命向戀從者公之三船乃梶柄母我

藤原朝臣廣嗣櫻花贈娘子歌一首

コノハナノヒトヨ
ウチニモクサノコトソ
モレルオホロ
此花乃一與能內爾百種乃言曾隱有於保呂

可爾為莫

娘子和歌一首

コノハナノヒトヨ
ウチニモクサノコトモチカ子テ
シラレ
此花乃一與能裏波百種乃言持不勝而所折

家良受也

厚見王贈久米女郎歌一首

ヤトニアルサクラノハナハ
イモモカモ
ミツカセハヤミツチニ
チルラム
屋戸在櫻花者今毛香聞松風疾地爾落良武

久米女郎報贈歌一首

コノナカモ
ツ子ニ
アラ子ハヤトニ
アルサクラノハナノ
チレル
世間毛常爾師不有者屋戸爾有櫻花乃不所

同

同

同

同

雜

花

比日可聞

紀女郎贈大伴宿禰家持歌二首

戲奴變云和氣之為吾手母須麻爾春野爾拔流茅

花曾御食而肥座

晝者咲夜者戀宿合歡木花君耳將見哉和氣

佐倍爾見代

右折攀合歡花并茅花贈也

大伴家持贈和歌二首

吾君爾戲奴者戀良思給有茅花乎雖喫彌瘦

爾夜須

吾妹子之形見乃合歡木者花耳爾咲而蓋實

爾不成鴨

大伴家持贈坂上大嬢歌一首

春霞輕引山乃隔者妹爾不相而月曾經爾來

右從父適京贈寧樂宅

夏雜歌

春茅花

春合歡木

春茅花

合歡木

戀

藤原夫人歌明日香清御原宮御宇天皇之

田部皇子之母也

霍公鳥痛莫鳴汝音乎五月玉爾相貫左右二

志貴皇子御歌一首

神名火乃磐瀨乃杜之霍公鳥毛無乃岳爾何

時來將鳴

弓削皇子御歌一首

霍公鳥無流國爾毛去而師香其鳴音乎聞者

辛苦母

小治田廣瀨王霍公鳥歌一首

霍公鳥音聞小野乃秋風茅開禮也聲之乏寸

沙彌霍公鳥詞一首

足引之山霍公鳥汝鳴者家有妹常所思

刀理宣令歌一首

物部乃石瀨之杜乃霍公鳥今毛鳴奴山之常

影爾

郭公

神名火 磐瀨 杜

同

秋 茅 霍

同

石瀨 杜

戀藤

山部宿禰赤人歌一首

戀之家婆形見爾將為跡吾屋戶爾殖之藤浪

今開爾家里

式部大輔石上堅魚朝臣歌一首

霍公鳥來鳴令響宇乃花能共也來之登問麻

思物乎

右神龜五年戊辰太宰帥大伴卿之妻大伴

辛郎女遇病長逝焉于時勅使式部大輔石

上朝臣堅魚遣太宰府弔喪并贈物色其事

既畢驛使乃府諸卿大夫等共登記夷城而

望遊之日乃作此歌

太宰帥大伴卿和歌一首

橘之花散里乃霍公鳥斤戀為乍鳴日四曾多

寸長手幾指嶽雨雲公具朝音聞昔嶽指曾益

大伴坂上郎女思筑紫大城山歌一首

今毛可聞大城乃山爾霍公鳥鳴令響良武吾

夏大城山郭公

夏橘郭公

夏卯花霍公

無禮好毛

大伴坂上郎女霍公鳥歌一首

何哥毛幾許戀流霍公鳥鳴音聞者戀許曾益

禮

小治田朝臣廣耳歌一首

獨居而物念夕爾霍公鳥從此間鳥渡心四有

良思

大伴家持霍公鳥歌一首

宇能花毛未開者霍公鳥佐保乃山邊來鳴令

響

大伴家持橘歌一首

吾屋前之花橘乃何時毛珠貫倍久其實成奈

武

大伴家持晚蟬歌一首

隱耳居者鬱悵奈具左武登出立聞者來鳴日

晚

戀郭公

戀同

宇能花
佐保山

橘夏

夏
日晚

夏郭公

大伴書持歌二首
ワカヤトニツキオシテレリホト、キスコハロアルコヨヒキナキトヨ
我屋戸爾月押照有霍公鳥心有今夜來鳴令

夏同橘

大伴清繩歌一首
ワカヤトノハナタキスエホト、キスイマコソナカメトモニアヘル
我屋前乃花橘爾霍公鳥今社鳴米友爾相流
時

夏同宇能花

大伴清繩歌一首
ミナヒトノマチシウノハナキルイトナクホト、キスワレワスレメ
皆人之待師宇能花雖落奈久霍公鳥吾將忘
哉

夏同橘

庵君諸立歌一首
ワカセコカヤトノタキハナナラヨミナクホト、キスミニソ
吾背子之屋戸乃橘花乎吉美鳴霍公鳥見曾
吾來之

戀同

大伴坂上郎女歌一首
ホト、キスイタナナキンヒトリ井テイノ子ラ又ニキケハクルシモ
霍公鳥痛莫鳴獨居而寐乃不所宿聞者苦毛

夏唐棣花

大伴家持唐棣花歌一首
ナツマテテサキタルハ子スヒサカタノアメウチフラハウツロヒナカ
夏儲而開有波禰受久方乃雨打零者將移香
大伴家持恨霍公鳥晚喧歌二首

夏郭公橘

ワカヤトノ八十多キハナラホト、キスキナカテツチニ
吾屋前之花橘乎霍公鳥來不喧地爾令落常

香カ

ホト、キスオモハスアリキコノクレノカクナルマテニナトカ
霍公鳥不念有寸木晚乃如此成左右爾奈何

不來喧

同夏

大伴家持權霍公鳥歌一首

イソコカハナキモニニケムホト、キスワキヘノサトニケ
何處者鳴毛思仁家武霍公鳥吾家乃里爾今

日耳曾鳴

大伴家持惜橘花歌一首

ハナタハナハナチルスキテタマニヌクヘクニニナナリニ
吾屋前之花橘者落迨而珠爾可也其實爾成二

家利

大伴家持霍公鳥歌一首

ホト、キスマテトキナカヌアマクサタマニヌクヒシイタトホ三
霍公鳥雖待不來喧蒲草玉爾貫日乎未遠美

香カ

大伴家持兩日聞霍公鳥喧歌一首

ウノハナノスキハシレミカホト、キスアマ、モオカスコユ
宇乃花能過者惜香霍公鳥兩間毛不置從此

間喧渡

夏同霍公

夏郭公蒲草

夏橘

同夏

同夏

橘夏

橘歌一首 遊行女婦
君家乃花橘者成爾家利花乃有時爾相益物
乎

大伴村上橘歌一首

吾屋前乃花橘乎霍公鳥來鳴令動而本爾令
散都

大伴家持霍公鳥歌二首

夏山之木末乃繁爾霍公鳥鳴響奈流聲之遠

佐

足引乃許乃間立八十一霍公鳥如此聞始而
後將戀可聞

大伴家持石竹花歌一首

吾屋前之瞿麥乃花盛有手折而一目令見兒
毛我母

惜不登筑波山歌一首

筑波根爾吾行利世波霍公鳥山妣兒令響鳴

筑波山

瞿麥

同夏

郭夏

橘夏

麻志也其

右一首高橋連蟲麻呂之歌中出

夏相聞

大伴坂上郎女歌一首

無暇不來之君爾霍公鳥吾如此戀常往而告

社

大伴四繩宴吟歌一首

事繁君者不來益霍公鳥汝太爾來鳴朝戸將

開

大伴坂上郎女歌一首

夏野乃繁見丹開有媚由理乃不所知戀者誓

物乎

小治田朝臣廣耳歌一首

霍公鳥鳴峯乃上能字乃花之狀事有哉君之

不來益

大伴坂上郎女歌一首

戀
霍
花

戀
由
理

戀
同

戀
郭
公

橘夏

五月之花橘乎為君珠爾貫零卷惜美

紀朝臣豐河歌一首

吾妹兒之家乃垣内乃佐由理花由利登云者
不謂云二似

高安歌一首

暇無五月乎尚爾吾妹兒我花橘乎不見可將
過

大神女郎贈大伴家持歌一首

霍公鳥鳴之登時君之家爾往跡追者將至鴨

大伴田村大嬢與妹坂上大嬢歌一首

舌鄉之奈良思之岳能霍公鳥言告遣之何如

告寸八

大伴家持攀橘花贈坂上大嬢歌一首并短

歌

伊加登伊可等有吾屋前爾百枝刺於布流橘
玉爾貫五月乎近美安要奴我爾花咲爾家里

由利夏

橘夏

郭夏

奈良思之

橘夏

朝爾食爾出見每氣緒爾吾念妹爾銅鏡清月
下サニケニ イテニルコトニイキノヲ ニ ワカオモライモニ マソカハニキヨキツキ
 夜爾直一眼令靚寐而爾波落許須奈由米登
ヨニ タ、ヒトメ ミ セムニ テニハ チリコス ナユメト
 云管幾許吾守物乎宇禮多伎也志許霍公鳥
イヒツ、コ、タクモワカモルモノヲウレタキヤレコホト、キス
 曉之裏悲爾雖追雖追尚來鳴而徒地爾令散
アカツキノウラカチレキニ ヲハト ヲハト ナラレキ ナキテ イタツラツツニ チラセ
 者為便乎奈羨攀而手折都見末世吾妹兒
ハスヘヲナニヨチテタ ヲリツニセ ワキモコ

反歌

望降清月夜爾吾妹兒爾令靚常念之屋前之
モチクタキキヨキヨニ ワキモ コニニニセムト オモヒレヤトノ

橘

妹之見而後毛將鳴霍公鳥花橘乎地爾落津
イモカニニノキモ ナカナムホト、キスハナタチハナフノキニ

大伴家持贈紀郎女作歌一首
ナテレコハ サキテチリヌ トヒトハ イヘト ワカレメレノハナ

瞿麥者咲而落去常人者雖言吾標之野乃花
ニ アラメヤモ

爾有目八方
ニ アラメヤモ

秋雜歌

崗本天皇御製歌一首

暮去者小倉乃山爾鳴鹿之今夜波不鳴寐宿
コトサレハククラノヤミニ ナクシカノヨヒハナカスイホ子ニ

家良思母

秋
 小倉山
 鹿

夏
 瞿麥

橘

夏
 橘

秋 黄葉

大津皇子御歌一首
經毛無緯毛不定未通女等之織黄葉爾霜莫
零

穗積皇子御歌二首

今朝之旦開鴈之鳴聞都春日山黄葉家良思

吾情痛之

秋茅者可咲有良之吾屋戸之淺茅之花乃散

去見者

但馬皇子御歌一首

事繁里爾下住者今朝鳴之鴈爾副而去益物

乎一云國爾不有者

山部王惜秋葉歌一首

秋山爾黄反木葉乃移去者更哉秋乎欲見世

武

長屋王歌一首

味酒三輪乃祝之山照秋乃黄葉散莫惜毛

同 黄葉

秋 黄葉

秋 鴈

秋 浅茅

秋 黄葉

萬葉集卷八

三十一

七夕

山上臣憶良七夕歌十二首

天上臣憶良七夕歌十二首
天漢相向立而吾戀之君來益奈利紉解設柰

一云向河

右養老八年七月七日應令

久方之漢瀨爾船泛而今夜可君之我許來益武

右神龜元年七月七日夜左大臣家

牽牛者織女等天地之別時由伊柰宇之呂河

向立意空不安久爾嘆空不安久爾青浪爾望

者多要奴白雲爾涕者盡奴如是耳也伊伎都

枳乎良牟如是耳也戀都追安良牟佐丹滄之

小船毛賀茂玉纏之真可伊毛我母

朝柰藝爾伊可伎渡夕盞爾

久方之天河原爾天飛也領巾可多思吉真玉

手乃玉手指更餘宿毛寐而師可聞

加秋爾安良受登母 一云秋不待登毛

反歌

萬葉集卷八

三十一

七夕

風雲者二岸爾可欲倍杼母吾遠孀之云波

事曾不通

多夫手二毛投越都倍伎天漢啟大而禮婆可

母安麻多須辨柰吉

右天平元年七月七日夜憶良仰觀天河云

師家

秋風之吹爾之日從何時可登吾待戀之君曾

來座流

天漢伊刀河浪者多多禰杼母伺候難之近此

瀨乎

袖振者見毛可波之都倍久雖近度為便無秋

西安良禰波

玉蜻蜒髻髻所見而別去者毛等柰也戀牟相

時麻而波

右天平二年七月八日夜帥家集會

牽牛之迎孀船已藝出良之漢原爾霧之立波

七夕

同

同

同

霞立天河原爾待君登伊往還程爾裳欄所沾
天河浮津之浪音佐和久奈里吾待君思舟出
為良之母

太宰諸卿大夫并官人等宴筑前國蘆城驛

家歌二首

娘部思秋茅子交蘆城野今日乎始而萬代爾

將見

珠匣葦木乃河乎今日見者迄萬代將忘八方

右二首作者未詳

笠朝臣金村伊香山作歌二首

草枕客行人毛往觸者爾保比奴倍久毛開流

茅子香聞

伊香山野邊爾開有茅子見者公之家有尾花

之所念

石川朝臣老夫歌一首

娘部志秋茅子折禮玉梓乃道去褻跡為乞兒

同娘部思

同伊香山 尾茅子

秋茅子

雜葦木河

秋娘部思 蘆城野 茅子

茅子

藤原宇合卿歌一首

ワカセ コヲ イツソノイマカト ミツクニオモヤハミエ
我背兒乎何時曾旦今登待苗爾於毛也者將

見秋風吹

ヨリユキノイタカ

縁達師謠一首

ヨヒニアヒテアサカホハツルカクレノハキハチリニキモ三千ハヤ
暮相而朝面羞隱野乃茅子者散去寸黃葉早

續也

山上臣憶良詠秋野花二首

アキ、ニサキタルハナヲテヲシリテカキカフハナナハナ
秋野爾咲有花乎指折可伎數者七種花其一

茅之花乎花葛花瞿麥之花如部志又藤袴朝

貌之花其二

天皇御製歌二首

アキノタノホタヲカリカ子クヤミヨノホトクニモ
秋田乃穗田乎鴈之鳴聞爾夜之穗村呂爾毛

鳴渡可聞

ケサノアサケカリカ子サミキ、ニナヘノアサキ
今朝乃且開鴈之鳴寒聞之奈倍野邊能淺茅

曾色付丹來

太宰帥大伴卿歌二首

同秋
淺茅

鴈秋

秋種

秋

秋
隱野
茅子
黃葉

秋風

ワカヲカニ サヲ シカキナクハツハキノ ハナツニトヒニ キナクサ
吾岳爾棹牡鹿來鳴先茅之花孀問爾來鳴棹

牡鹿

ワカラカノ アキハキハナカセヲ イ冬ニチルヘクナリ又ニムヒトモ カナ
吾岳之秋茅花風乎痛可落成將見人裳欲得

三原王歌一首

アキツユハ ウツニ ナリケリ ミツトリノ アヲハノ ヤマノ イロツク
秋露者移爾有家里水鳥乃青羽乃山能色付

見者

湯原王七夕歌二首

ニコホシノ オモヒスラム コノロユモニルワレクルニ ヨノ フケニ
牽牛之念座良武從情見吾辛苦夜之更降去

者

タナハタノ ソテツクヨルノ アカツキハ カハセノ タツハ ナカス
織女之袖續三更之五更者河瀨之鶴者不鳴

友吉

市原王七夕歌一首

イモカリト ワカユクニチノ カハアレハ ヒトメ ツムト ヨソフケニ
妹許登吾去道乃河有者附目緘結跡夜更降

家類

藤原朝臣八束歌一首

サラレカノ ハキニ ヌキヲケルツユノ シラタミアフサワニ タレノ
棹四香能茅二貫置有露之白珠相佐和仁誰

人可毛手爾將卷知布

大伴坂上郎女晚茅子歌一首

咲花毛宇都呂波狀與手有長意爾尚不如家

里

典鑄正紀朝臣鹿人至衛門大尉大伴宿禰

稻公跡見庄作歌一首

射目立而跡見乃岳邊之瞿麥花紛手折吾者

將去寧樂人之爲

湯原王鳴鹿歌一首

秋茅之落乃亂爾呼立而鳴奈流鹿之音遙者

市原王歌一首

待時而落鐘禮能雨令零叔朝香山之將黃蘗

湯原王蟋蟀歌一首

暮月夜心毛思努爾白露乃置此庭爾蟋蟀鳴

毛

衛門大尉大伴宿禰稻公歌一首

秋 茅子

夏 瞿麥 寧樂 跡見岳

秋 鹿 茅

秋 朝香山 黃葉

秋 蟋蟀

秋 三笠山 黄葉

鐘禮能雨無間零者三笠山木末歷色附爾家
里

大伴家持和歌一首

星之御笠乃山能黄葉今日之鐘禮爾散香過

奈牟

安貴王歌一首

秋立而幾日毛不有者此宿流朝開之風者手

本寒母

忌部首黑麻呂歌一首

秋田新借廬毛未壤者鴈鳴寒霜毛置奴我二

故卿豐浦寺之尼私房宴歌三首

明日香河迤回岳之秋茅子者今日零雨爾落

香過奈牟

右一首丹比真人國人

鶉鳴古郷之秋茅子乎思人共相見都流可聞

秋茅子者盛過乎徒爾頭刺不揺還去牟跡哉

同 茅子

秋 鶉

秋 明日香河 茅子

秋 鴈

秋

同 御笠山 黄葉

古詩集卷八 三十九

右二首沙彌左等

大伴坂上郎女跡見田庄作歌二首

妹目乎始見之埒乃秋茅子者此目其吕波落

許須莫湯目

古名張乃猪養山爾伏鹿之孀呼音乎聞之登

聞思佐

巫部麻蘇娘子鴈歌一首

誰聞都從此間鳴渡鴈鳴乃孀呼音乃之知左

寸

大伴家持和歌一首

聞津哉登妹之間勢流鴈鳴者真毛遠雲隱奈

利

日置長枝娘子歌一首

秋付者尾花我上爾置露乃應消毛吾者所念

香聞

大伴家持和歌一首

秋
尾花

同
鴈

秋
鴈

秋
猪養山
鹿

秋
始見之埒
茅子

秋 茅子

ワカヤトシヒトムラハキヲオモフコニミセテホトクナラセ
吾屋戸乃一村茅子乎念兒爾不令見殆令散
ツルカモ

大伴家持秋歌四首

カ子
久堅之雨間毛不置雲隱鳴曾去奈流早田鴈
之哭

同 鴈

クモカクレナクナルカリノユキテイムアキタノホタチニケリ
雲隱鳴奈流鴈乃去而將居秋田之穗立繁之
所念
アニコモリニコユカミミイテミレハカスカノヤマハイロツキニケリ
雨隱情鬱悒出見者春日山者色付二家利

同 月

雨晴而清照有此月夜又更而雲勿田菜引
右四首天平八年丙子秋九月作

藤原朝臣八束歌二首

コニアリテカスカヤイツコアマサリイテユカ子ハコヒツ
此間在而春日也何處雨障出而不行者戀乍
曾乎流

秋 春日野 黃葉 高田山

カスカノニシクレフルミユアスヨリハモ三千カサム
春日野爾鐘禮零所見明日從者黃葉頭刺牟
高圓乃山
大伴家持白露歌一首

秋
草花

ワカヤトノヲハナカウヘノシラツユヲケケタス
吾屋戸乃草花上之白露乎不令消而玉爾貫
モノニモカ

大伴利上歌一首

秋之雨爾所沾乍居者雖賤吾妹之屋戸志所
ホユルカ

念香聞

右大臣橘家宴歌七首

雲上爾鳴奈流鴈之雖遠君將相跡手回來津
モトホリキツム

雲上爾鳴都流鴈乃寒苗芽子乃下葉者黃變
モトホリキツム

可毛

右二首

此岳爾小牡鹿履起宇加湫良比可聞可開為
コノツカニシカフミキレウカチラヒカモカクス

良久君故爾許曾

右一首長門守臣曾倍朝臣津島

秋野之草花我末乎押糜而來之父毛知父相
ルキミカモ

流君可聞

今朝鳴而行之鴈鳴寒可聞此野乃淺菊色付
アサチイロツキ

秋
鴈
淺菊

秋
草花

秋
鹿

秋
鴈

秋

爾家類

右二首阿倍朝臣蟲麻呂

朝扉開而物念時爾白露乃置有秋茅子所見

喚鷄本名

棹牡鹿之來立鳴野之秋茅子者露霜負而落

去之物乎

右二首文忌寸馬養

天平十年戊寅秋八月二十日

秋 茅子

同 茅子

秋 黃葉

秋 黃葉

秋 黃葉

橘朝臣奈良麻呂結集宴歌十一首

不手折而落者惜常我念之秋黃葉乎挿頭鶴

鴨

布將見人爾令見跡黃葉乎手打曾我來師雨

零久仁

右二首橘朝臣奈良麻呂

黃葉乎令落鐘禮爾所沾而來而君之黃葉乎

挿頭鶴鴨

秋
黄葉

右一首久米女王

布將見跡吾念君者秋山始黄葉爾似許曾有

家禮

右一首長忌寸娘

平山乃峯之黄葉取者落鐘禮能雨師無間零

良志

右一首内舍人縣犬養宿禰吉男

黄葉乎落卷惜見手折來而今夜挿頭津何物

可將念

右一首縣犬養宿禰持男

是引乃山之黄葉今夜毛加浮去良武山河之

瀬爾

右一首大伴宿禰書持

平山乎令丹黄葉手折來而今夜挿頭都落者

雖落

右一首之手代人名

司
平山
黄葉

同
黄葉

同
平山
黄葉

秋 黄葉

露霜爾逢有黄葉乎手折來而妹挿頭都後者
落十方

右一首秦許遍麻呂

十月鐘禮爾相有黄葉乃吹者將落風之隨

右一首大伴宿禰池主

黄葉乃過麻又惜美思共遊今夜者不開毛有

奴香

右一首内舎人大伴宿禰家持

以前冬十月十七日集於右大臣橘郷之舊

宅宴飲也

大伴坂上郎女竹田庄作歌二首

然不有五百代小田乎劫亂田廬爾居者京師

所念

隱口乃始瀨山者色附奴鐘禮乃雨者零爾家

良思母

右天平十一年己卯秋九月作

秋 始瀨山 黄葉

雜

秋 黄葉

秋 黄葉

紅葉

佛前唱歌一首

思具禮能雨無間莫零紅爾丹保做流山之落

卷惜毛

右冬十月皇后官之維摩講終日供養大唐

高麗等種種音樂爾乃唱此詞詞彈琴者市

原王忍坂王

後賜姓大原真呂也

歌子者田口朝

臣家守河邊朝臣東人置始連長谷等十數

人也

大伴宿禰像見歌一首

秋茅子乃枝毛十尾二降露乃消者雖消色出

目八方

大伴宿禰家持到娘子門作歌一首

妹家之門田乎見跡打出來之情毛知夕照月

夜鴨

大伴宿禰家持秋歌三首

秋野爾開流秋茅子秋風爾靡流上爾秋露置

秋戀 茅子

戀月

秋 茅子

秋鹿 茅子

秋鹿 茅子

秋鹿 茅子

秋鹿 花薄

秋鹿

秋鹿

有

サラシカノアサタツノヘノアキハキニタマトミルマテ
棹牡鹿之朝立野邊乃秋茅子爾玉跡見左右

置有白露

サヲシカノム子ワケニカモアキハキノチリスギケル
狹尾牡鹿乃曾別爾可毛秋茅子乃散過鷄類

盛可毛行流

右天平十五年癸未秋八月見物色作

内舍人石川朝臣廣成歌二首

ツニコヒニシカナクヤニノアキハキハツユシモサムサカリス
妻戀爾鹿鳴山邊之秋茅子者露霜寒盛須疑

由君

メツラシキキミカイヘナルハナス、キホニイツルアキノスキラ
目頗布君之家有波奈須為寸穗出秋乃過良

久惜母

大伴宿禰家持鹿鳴歌二首

ヤヒヒコノアヒトムマテツニコヒニシカナクヤマヘニヒトリノミ
山妣姑乃相響左右妻戀爾鹿鳴山邊爾獨耳

為手

コノコロノアサケニキケハアヒヒキノヤマヲトヨミサヲ
頃者之朝開爾聞者足日木菟山乎令響狹尾

牡鹿鳴哭

天平十五年癸未八月十六日

右二首天平十五年癸未八月十六日作

大原真人今城傷惜寧樂故卿歌一首

秋去者春日山之黃葉見流寧樂乃京師乃荒

良久惜毛

大伴宿禰家持歌一首

高圓之野邊乃秋茅子比日之曉露爾開葉可聞

秋相聞

額田王思近江天皇作歌一首

君待跡吾戀居者我屋戶乃簾令動秋之風吹

鏡王女作歌一首

風乎谷戀者乏風乎谷將來常思待者何如將

嘆

弓削皇子御歌一首

秋茅子之上爾置有白露乃消可毛思柰萬思

戀管不有者

丹比真人歌一首

名關

秋 春 寧樂 黃葉

秋 高圓野 茅子

秋 戀

戀

戀 茅子

秋 宇陀野
茅子鹿

宇陀乃野之秋茅子師弩藝鳴鹿毛妻爾戀樂
苦我者不益

秋 戀
高圓野
瞿麥

丹生女王贈太宰帥大伴卿歌一首
高圓之秋野上乃瞿麥之花于壯香見人之挿
頭師瞿麥之花

鹿秋

笠縫女王歌一首
足日木乃山下響鳴鹿之事之可母吾情都末

秋 戀

神佐夫等不許者不有秋草乃結之紉乎解者
悲哭

鹿秋

賀茂女王歌一首
秋野乎且往鹿乃跡毛奈久念之君爾相有今
夜香

鷹秋

右歌或云掠橋部女王或云笠縫女王作
遠江守櫻井王奉 天皇歌一首
九月之其始鴈乃使爾毛念心者可聞來奴鴨

雜
大乃浦
井浦

天皇賜報和御歌一首

モホノウラノツノナカハマニヨスルナニユタクキミヲオモフコノコロ
大乃浦之其長濱爾縁流浪寛公乎念比日

笠女郎賜大伴宿禰家持歌一首

アサコトニワカミルヤトノナテレコノハナニモキミハアリコセ
每朝吾見屋戸乃瞿麥之花爾毛君波有許世

又カモ
奴香裳

山口女王賜大伴宿禰家持歌一首

アキハキニオキタルツユノカセフキテオウルナニタハトメカ子
秋茅子爾置有露乃風吹而落淚者留不勝都

毛

湯原王賜娘子歌一首

タマニヌキケサテタマラムアキハキノウレワラ
玉爾貫不令消賜良牟秋茅子乃宇禮和和良

ハニオケルレラツユ
葉爾置有白露

大伴家持至姑坂上郎女竹田庄作歌一首

タマホコノミチハトホケトヨシエヤレイモヲアヒミニイテソ
玉梓乃道者雖遠愛哉師妹乎相見爾出而曾

ワカコレ
吾來之

大伴坂上郎女和歌一首

アラタマノツキタツマテニキマサチハユメニシミツ、オモソ
荒玉之月立左右二來不益者夢西見乍思曾

總
瞿麥

憲
茅子

秋
茅子

戀
梓乃

戀
荒玉

吾勢思

右二首天平十一年巳卯秋八月作

巫部麻蘇娘子歌一首

吾屋前乃茅子花咲有見來益今二日許有者

將落

大伴田村大嬢與坂上大嬢歌二首

吾屋戸乃秋之茅子開夕影爾今毛見師香妹

之光儀乎

吾屋戸爾黃變蝦手每見妹乎懸管不戀日者

無

坂上大嬢秋稻蘊贈大伴宿禰家持歌一首

吾之蒔有早田之穗立造有蘊曾見乍師弩波

世吾背

大伴宿禰家持報贈歌一首

吾妹兒之業跡造有秋田早穗乃蘊雖見不飽

可聞

同

戀

秋 黃葉

秋 茅子

秋 茅子

秋戀

又報脫著身夜贈家持歌一首

アキカセノサキユノコロシタニキハイモカカタミトカツモ
秋風之寒比日下爾將服妹之形見跡可都毛

思努播武

右三首天平十一年巳卯秋九月往來

大伴宿禰家持攀非時藤花并茅子黃葉二

物贈坂上大嫌歌二首

ワカヤトノトキオラヌフキノメツラレクイマモミテレカイモカ
吾屋戸之非時藤之日頗布今毛見牡鹿妹之

笑容乎

爾黃葉雖年每長秋乎感曾不意日昔

秋

吾屋前之茅子乃下葉者秋風毛未吹者如此

曾毛美照

右二首天平十二年庚辰夏六月往來

大伴宿禰家持贈坂上大嬢歌一首并短歌

イタミノモノヲオモハハイハハスヘセムスヘモナレイモ
叩々物乎念者將言為便將為為便毛奈之妹

トワレテタツサハリテアレタニハニハニイテタチユフヘニハトコウチハレヒロ
與吾手携拂而旦者庭爾出立夕者床打拂白

タヘノソテサレカヘテサ子レヨヤツ子ニアリケルアレヒ
細乃袖指代而佐寐之夜也常爾有家類足日

キノヤマトリコソハヲムカヒニツマヒストイヘウツセ三ノヒト
木能山鳥許曾婆峯向爾孀問為云打蟬乃人

戀
高山

雜戀
藤

戀 高野 容花

有我哉如何為跡可一日一夜毛離居而嘆戀
良武許已念者胸許曾痛其故爾情奈具夜登
高圓乃山爾毛野爾每打行而遊往籽花耳丹
穗日手有者每見益而所思奈何為而忘物曾
戀云物乎

反歌

高圓之野邊乃容花面影爾所見乍妹者忘不

勝裳

秋 戀 久通

大伴宿禰家持贈安倍女郎歌一首
今造久邇能京爾秋夜乃長爾獨宿之苦左

大伴宿禰家持從久邇京贈留寧樂宅坂上

大娘歌一首

足日木乃山邊爾居而秋風之日異吹者妹乎

之曾念

或者贈尼歌二首

手母須麻爾殖之芽子爾也還者雖見不飽情

秋 戀 小

秋

將盡

衣手爾水澁付左右殖之田乎引板吾波倍真
守有栗子

尼作頭句并大伴宿禰家持所詆足續末句

等和歌一首

保佐河之水乎塞上而殖之田乎
尼作 刈流早

飯者獨奈流倍思 家持續

冬雜歌

舍人娘子雪歌一首

大口能真神之原爾零雪者甚莫零家母不有

國

太上天皇御製歌一首

波太須珠才尾花逆耳黒木用造有室者迄萬

代

天皇御製歌一首

青丹吉柰良乃山有黒木用造有室戸者雖居

續句
佐保河

冬
大口
真神原

雜
尾花

雜
柰良山

座不飽可聞

右聞之御在左大臣長屋王佐保宅肆宴御

製

太宰帥大伴卿冬日見雪憶京歌一首

沫雪保杼呂保杼呂爾零敷者平城京師所念

可聞

太宰帥大伴卿梅歌一首

吾岳爾盛開有梅花遺有雪乎亂鶴鳴

角朝臣廣辨雪梅歌一首

沫雪爾所落開有梅花君之許遣者與曾倍豆

牟可聞

安倍朝臣奥道雪歌一首

棚霧合雪毛零奴可梅花不開之代爾曾倍而

谷將見

若櫻部朝臣君足雪歌一首

天霧之雪毛零奴可炊然此五架爾零卷乎將

平城

梅春

梅春

冬

冬

見

三野連石守梅歌一首

引攀而折者可落梅花袖爾古寸入津染者雖

染

巨勢朝臣宿柰麻呂雪歌一首

吾屋前之冬木乃上爾零雪乎梅花香常打見

都流香裳

小治田朝臣東麻呂雪歌一首

夜干玉乃今夜之雪爾率所沾名將開朝爾消

者惜家年

忌部首黑麻呂雪歌一首

梅花枝爾可散登見左右二風爾亂而雪曾落

久類

紀少鹿女郎梅歌一首

十二月爾者沫雪零跡不知可毛梅花開含不

有而

冬梅

大伴宿禰家持雪梅歌一首

ケウ フリレ ユキニ ホヒテ ワカヤト ノ フユキノウメハ ハナサキ
今日零之雪爾競而我屋前之冬木梅者花開
ニケリ
二家里

御在西池邊肆宴歌一首

イタノノミツノ スエハニ フルユキハ イホヘ フリレテアス
池邊乃松之末葉爾零雪者五百重零敷明日
サヘモミム
左倍母將見

右一首作者未詳但豎子阿倍朝臣蟲麻呂

傳誦之

大伴坂上郎女歌一首

アハニキノ ヒナヘニツキテ カク フレハ ウメノハツハナチリカ スキナム
沫雪乃比日續而如此落者梅始花散香過南

池田廣津娘子梅歌一首

ウメノハナブリモ フラスモ ミツレトモ コヨヒノ ハナニ ナホ
梅花折毛不折毛見都禮村母今夜能花爾尚
シカスケリ
不如家利

縣犬養娘子依梅發思歌一首

イノコトコロシ ツチニモモヘラハ マツサクハナノ ツチニ オキメヤ
如今心乎常爾念有者先咲花乃地爾將落八
方

梅春

梅春

梅春

冬

冬 松

大伴坂上郎女雪歌一首

松影乃淺茅之上乃白雪乎不令消將置言者
可聞奈吉

冬相聞

三國真人人足歌一首

高山之菅葉之努藝零雪之消跡可日毛戀乃

繁鷄鳩

大伴坂上郎女歌一首

酒杯爾梅花浮念共飲而後者落去登母與之

和歌一首

官爾毛縱賜有今夜耳將飲酒可毛散許須奈

由米

右酒者官禁制僞京中間里不得集宴但親

親一二飲樂聽許者緣此和人作此發句焉

藤原后奉 天皇御歌一首

吾背兒與二有見麻世波幾許香此零雪之懼

冬 菅

酒

酒

冬

有麻思

池田廣津娘子歌一首

真木乃於上零置有雪乃敷布毛所念可聞佐

夜問吾背

大伴宿禰駿河麻呂歌一首

梅花令落冬風音耳聞之吾妹乎見良父志吉

裳

紀少鹿女郎歌一首

父方乃月夜乎清美梅花心開而吾念有公

大伴田村大娘與妹坂上大娘歌一首

沫雪之可消物乎至今流經者妹爾相曾

大伴宿禰家持歌一首

沫雪乃庭爾零敷寒夜乎手枕不纏一香聞

將宿



萬葉集卷第八

春戀 梅

冬 真木

月

雜

戀

葛藟荒荒

兼寄

刺齊公政爾琴瑟亦平乎

大野密節案齊樂上音

刺齊公政爾琴瑟亦平乎

大野密節案齊樂上音

又次公員齊平案齊樂上音

